

川崎スポーツ



FII

9月14日(土) 15日(日) 16日(月)

Kドリームス杯・スポーツニッポン杯

各地区の戦力乱立して激戦

9月14日から開催される川崎競輪はKドリームス杯、スポーツニッポン杯のF2戦。ガールズケイリンも含めた12レースで構成される。

A級1、2班戦は各地区に主力級が揃い激戦ムードだ。地元南関東は斎藤宗徳(千葉100期)―柴田功一郎(神奈川79期)の両者。菅田和宏(宮城88期)―阿部英光(宮城89期)の宮城コンビを中心とした東北ライオン。関東勢も大矢崇弘(東京107期)と小峰烈(長野98期)の機動型に、マーク堅実な坂本将太郎(栃木101期)が統一接戦。中近勢は森川康輔(岐阜111期)や中釜章成(大阪113期)らの注目される若手機動型がいる。前S級の山本奨(岡山94期)と森安崇之(香川84期)の中西コンビもV争いに加わる実力は十分だ。

チャレンジ戦は藤井侑吾(愛知115期)・岩谷拓磨(福岡115期)をはじめとしたルーキーの活躍に期待したいところ。

ガールズケイリンは地元佐藤水菜(神奈川114期)が中心で、年末のガールズGPに向けてのラストスパートに弾みをつけたいところだ。それに待ったを掛けるのが、長澤彩(愛知106期)を筆頭に石井貴子(東京104期)や吉村早耶香(静岡112期)らの実力者。久米詩(静岡116期)や村田奈穂(熊本116期)の新人2人にも注目したい。

A級主力選手

菅田 和宏



今期からはA降級となった菅田だが、37歳を迎えた現在でも積極的な走りや攻めの姿勢を崩さない。やや成績にムラはあるものの、前期の終盤には徐々に状態が向上している感があった。近年は昇降級を続けているが、

前期の終盤には徐々に状態が向上している感があった。近年は昇降級を続けているが、小手先の走りにならずに再び自力での復活を目指している。若手が相手でも怯まないし、鋭い踏み出しから繰り出す豪快な走りは迫力満点。特別競輪で活躍を続けた菅田順和(36期)引退が父で、妹の賀子(新潟104期)はガールズケイリンの選手。叔父は菅田彰人(47期)引退で、従兄に志道(宮城91期)と謙仁(宮城109期)と揃う競輪家。菅田家の競輪DNAを継承する菅田の熱い走りは、連日レースを動かしていくだろう。

中釜 章成



精鋭揃いの113期の1人である中釜章成は、昨年末にチャレンジから特昇班。それを決めたのがこの川崎。同じく8連勝で特昇班を賭けていた同期の嵯峨昇喜郎(青森113期)を倒して決めた思い入れあるバンクだろう。在校57位と決して良くない成績ではあったが、師匠の山村憲太(大阪97期)いわく「単純に学校の生活や練習が本人に合っただけ」と語っていたが、フタを空けてみれば師の言う通り。既に昇班後に3V。常に人気を背負う走りが続いている。しかし中釜はこれに満足はしない。「1日でも早くS級に上がりたいし特進できるように頑張りたいですね」と、既に見つめる先はS昇級。鋭いタッチを生かした自力勝負で今シリーズも人氣に応える走りを披露する。

CR級主力選手

藤井 侑吾



在校5位でゴールデンキヤップも獲得した期待の新鋭レーサー。高校まではテニスに打ち込んでいた藤井だが、大学から乗りに始めたロードバイクに魅了され、後に師匠の水谷良和と出会う事であるの転機を迎えた。師匠の水谷良和は「たまたま知り合っただけにロードレースに連れて行ったりするようになった。そのうちに競輪選手を目指すことになって面倒を見ることになった。ゴールデンキヤップを見るくらいだから、もちろん力はあるよ。脚質は地脚寄りなんだろうね。また走りが硬い。もともとやる力はあるよ。俺は来期はA級。上へ上がって行くであろうアイトツとすれ違わないように頑張ると」と愛弟子の成長に目を細めつつ、師弟連係を夢見る。デビューからの3戦はまだまだ本領発揮とはいってない様子。8月落車の影響が気になるところだが、初の東日本遠征で豪快な自力を見せて欲しいところ。



ガールズ主力選手

長澤 彩



デビューから5年が過ぎた長沢彩だが、変わらぬ安定感でファンの支持に応え続けている。450走以上のレースを消化して勝率は4割以上、3連対率は8割越え。ガールズケイリンファンに大きく貢献している。的確な組み立てやレースの流れに乗る嗅覚は抜群。いざという場面での思い切りもある。そして、ここの番の勝負強さも魅力のひとつ。これまでガールズコレクションの二重、ファン投票で選出されるアルテミス賞を、度々制覇してきた。そして今年8月の名古屋で連覇の懸かっていたアルテミス賞は、直線力の快勝。地元の大舞台で持ち前の勝負強さを発揮して破顔笑みつつある長沢は川崎に向けて「川崎は好きなバンクのひとつ。走るのが楽しみです」と語る。もちろん今シリーズもV候補の一人として注目される。

久米 詩



父はS級でも長らく活躍していた久米康徳(70期)引退。二世選手の入米は高校までテニスに打ち込んでいたが、父の背中を追って競輪界の門を叩き、適正試験で競輪学校に合格した。そして無事に卒業。父は現役時代は京都に籍を置いていたが、現在は修善寺にある競輪学校の教官に就いているため、久米は静岡の選手として7月にデビュー。初戦の奈良は2日間先行して勝ち上がり、決勝戦は3着と健闘。輪歴は長くないものの、父の影響で競輪を身近に育ったからか実戦向きなタイプに見受けられる。そして、長い距離を踏める印象もある。レースで前々へ攻めたい力をつけて行けば大化けする可能性も十分にありそうだ。年齢的な面やこれまでのキャリアの浅さを考慮すれば、まだまだ大きな伸びが考えられる。今後の成長に期待したいルーキーだ。

URBAN BANK かわさきケイリン

○	▲	◎	注	山	×	予想
阿部英光	坂本将太郎	森安崇之	中釜章成	菅田和宏	斎藤宗徳	大矢崇弘
宮城	栃木	香川	大阪	宮城	千葉	東京
89	101	84	113	88	100	107
A1	A1	A1	A2	A1	A1	A1
3回	4回	2回	17回	5回	8回	4回
3回	6回	2回	5回	3回	3回	3回
8回	3回	8回	2回	5回	4回	2回
6回	13回	9回	6回	11回	15回	16回
1回	1回	0回	0回	1回	0回	0回
1回	0回	0回	0回	1回	0回	0回
22回	27回	21回	30回	25回	30回	25回
13.60%	14.80%	9.50%	56.60%	20.00%	26.60%	16.00%
27.20%	37.00%	19.00%	73.30%	32.00%	36.60%	28.00%
63.60%	48.10%	57.10%	80.00%	52.00%	50.00%	36.00%
0回	0回	0回	12回	10回	3回	9回
0回	0回	0回	21回	12回	7回	11回
93.10	92.00	95.76	93.83	96.37	92.20	95.92

決勝想定メンバー